

NPO法人 龍ヶ崎ゲヴァントハウス 春の特別企画
講演会とコンサート
クラシック音楽作曲技法超入門
～19世紀音楽の魅力を探る～

毎年恒例となっております「特別企画」ですが、東京、福島、北海道からも音楽ファンが駆けつけ、お陰さまで盛況となっております。今回2017年の第1回目は元「レコード芸術」編集長としてご活躍された野澤龍介氏を講師にお招きし“講演会とコンサート”を行います。

野澤氏は、音楽之友社に約30年間勤務、クラシック音楽ファンには必携の「レコード芸術」誌の編集長の他、編集者、音楽ライターとして多くの著書に携わってこられました。バッハやヘンデルのバロック期、ハイドン、モーツァルトの古典派から古典派の枠を超えて行ったベートーヴェン。シューベルト、ワーグナー、ブラームス…と広大な流れを持つロマン派の時代。一方でドヴォルザークやシベリウスの国民学派、ドビュッシーやラヴェルの印象主義が生まれ、シェーンベルクによる十二音技法が、現代音楽への扉を開いていきます。今回はこれまでの豊富な知識と経験を生かしながら、19世紀音楽の作曲技法を中心に、幾つかの名曲を例にとりて聴きながら、分かりやすく解説していただきます。

日 時：2017年3月18日(土) 午後2時00分～午後4時00分

場 所：龍ヶ崎ショッピングセンター「リブラ龍ヶ崎」2階旧映画館

講 師：野澤龍介氏(元「レコード芸術」誌編集長)

テーマ：クラシック音楽作曲技法超入門 ～19世紀音楽の魅力を探る～

《野澤龍介氏・略歴》

1952年東京都生まれ。1974年音楽之友社に入社。約30年間勤務し、音楽雑誌『ステレオ』、『レコード芸術』などを担当。『ステレオ』副編集長、『レコード芸術』編集長を歴任。編集者、音楽ライター。2003年音楽之友社を退社。現在はフリーランスで活動している。ジャンルはクラシック、ジャズからオーディオ関係など広範囲に及ぶ。著書の執筆・監修に『クラシック超入門』(河出書房新社)、『クラシック人生の100枚』(企画・編集/音楽之友社)、『伝説のクラシックライヴ』(TOKYO FM出版)等。

🌀 講演会使用曲 🌀

ラヴェル：「ボレロ」から冒頭3分位

ベルナルト・ハイティンク指揮ボストン交響楽団(EMI)

ベートーヴェン：交響曲第3番変ホ長調「英雄」から第1楽章4分位

カール・ベーム指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団(独グラモフォン)

ベートーヴェン：交響曲第5番ハ短調から第4楽章冒頭2分位、第1楽章冒頭2分位の聴き比べ

①ルドルフ・ケンペ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団(EMI)

②ロジャー・ノリントン指揮ロンドン・クラシカル・プレイヤーズ(EMI)

③フランス・プリユッヘン指揮18世紀オーケストラ(フィリップス)

④ベルナルト・ハイティンク指揮アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団(フィリップス)

⑤ヘルベルト・ブロムシュテット指揮ドレスデン・シュターツカペレ(独シャルプラッテン)

⑥カール・ベーム指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団(独グラモフォン)

⑦ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団(独グラモフォン)

リヒャルト・シュトラウス：交響詩「ツアラトウストラはかく語りき」から冒頭

ルドルフ・ケンペ指揮ドレスデン・シュターツカペレ(EMI)

リヒャルト・シュトラウス：「アルプス交響曲」から「日の出」(通常CDとガラスCDの聴き比べ)

ウラディーミル・アシユケナージ指揮チエコ・フィルハーモニー管弦楽団(ポニーキャニオン)

マーラー：交響曲第5番嬰ハ短調から(通常CDとUHQCDの聴き比べ)

エリアフ・インバル指揮フランクフルト放送交響楽団(DENON)